

# 日本の転職文化 Japan's Job Transfer Culture

ロウ アディラ Adila Loh

82-371: Advanced Japanese I

## 1. はじめに

このプロジェクトでは、「どうして日本人はあまり転職しないのか」という質問について書きたいと思う。私の母は何回も転職をしていた。そのため、社会に出たら転職するのは当たり前だと考えていた。しかし、日本の友人と、アメリカと日本の会社の仕組みの違いについて話していた時たまたま転職の話になり、その時「日本では転職するのは珍しい、ほとんどの人はずっと同じ会社で働き続けるよ」と教えてもらってとても驚いた。アメリカの働き方と日本の働き方が違うなんて考えたこともなかったからだ。

なぜ日本の働き方はアメリカと違うのかということをもっと知りたかったためこのトピックを選んだ。今の段階の暫定的な結論は、日本の文化では個人よりも社会の方を重んじるため、会社でも転職をしないで、今の社内の調和を重視しているのではないかと考える。

## 2. どうして日本人はあまり転職しないのか

### 2-1. 転職しない文化の良い点

日本の転職率は世界の中でもかなり低い。日本には「終身雇用制度」というシステムがあり、一度入社した会社に定年退職まで働くというのが昔からの考え方である。そ

のため、新入社員と定年退職者が入れ替わるくらいでその他の転職者は少なく、社内の人間はほとんどが同じメンバーである。そのため、社員のほとんどが仕事の内容を共有しており、常に即戦力になっている。会社としてのクオリティがある程度のレベルに保たれるのだ。

また、「企業としての文化やアイデンティティが保たれやすい」、「社員の仕事のレベルがほぼ同じなため、技術伝達のコミュニケーションが取りやすい」などが挙げられる。社内の人間がほとんど同じなので一つの「家族」のような雰囲気生まれる。一致団結して仕事に取り組もうとするチームワークが生まれるのだ。

## 2-2. 転職しない文化の悪い点

このように日本の転職しない文化は色んなメリットがあるが、その代わりにデメリットもある。「企業の文化が保たれやすい」と先ほど述べたが、それは会社の悪い文化も温存させてしまう可能性があるという事である。

例えば、人の入れ替わりが少ないことで、先輩後輩の人間関係がずっと続くため、先輩を気にしてしまうあまり、個人が「会社のここをこうしたい」という提案をしにくい環境が出来上がってしまう。会社が良い方向に向かっている時は大抵 チームワークを発揮するが、会社がピンチになった時誰も自分の意見を言えない状況になってしまうのは危険である。

また、能力のある人が自分のスキルアップのために転職しようとしても、社会の雰囲気や重んじる文化がそれを良く思わないせいで転職がしにくくなり、個人が社会の圧力につぶされてしまう事もあるだろう。

## 2-3. 日本の会社の入り方

転職をしないということは、最初に入社を決めた会社がとても大事だという事である。日本はどの時期に入社するのか。

日本では大学を3月に卒業すると、4月に会社に就職するのが普通である。特別なジャンルの仕事は別かもしれないが、基本的には日本の大卒者が同じタイミングで4月から新社会人になる。これもアメリカでは珍しい。アメリカでは会社に入る必ず決まった日がない。大学生は学生のうちにインターンシップを見つけないといけない。そうすると、若い時から会社との関係を作られる。でも、日本と違い、その関係はずっと続かない。逆に、その会社との経験はいつかもっと地位が高い会社に転職する準備のためのものだ。

#### 参考文献

[http://www.works-i.com/pdf/r\\_000065.pdf](http://www.works-i.com/pdf/r_000065.pdf)

<http://www8.cao.go.jp/youth/kenkyu/worldyouth7/html/no3-1-7.html>

<http://www.iec.co.jp/gl/005.html>